質の高さを認められた

大学教育プログラム

文部科学省が高く評価した本学の優れた「教育力」

文部科学省は、大学教育の「質の向上」を目指して、平成 15 年度に「特色ある大学教育支援プログラム（特色 GP）」の事業を、さらに平成 20 年度から「質の高い大学教育推進プログラム（教育 GP）」等の事業を、それぞれ開始し、全国の大学・短期大学の教育取組の中から、特に優れたものを選定し、広く社会に情報提供を行っています。本学が有する多様な教育プログラムの内、平成 16 年度および平成 19 年度文部科学省「特色 GP」、さらに平成 20 年度同「教育 GP」に選定され、平成 21 年度は「学生支援推進プログラム」に選定されました。

※ GP とは優れた取組を表す Good Practice の頭文字をとった略称です

教育GP と **特色GP**

文部科学省では、大学・短期大学・高等専門学校等における学生教育の質の向上を目指す個性・特色のある優れた取組を選び、サポートしています。そのためのサポートプログラムが「特色ある大学教育支援プログラム（特色ＧＰ）」や「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代ＧＰ）」などです。平成２０年度からは、特色ＧＰと現代ＧＰを発展的に統合した「質の高い大学教育推進プログラム（教育 GP）」を実施し、日本の大学教育のさらなる向上を図っています。

教育GP

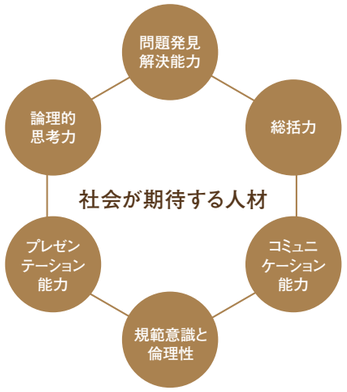
テュートリアル教育［問題解決型学習］

平成 20 年度 文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム」選定
『テュートリアル教育による教養教育の充実』―教養ある専門職業人の育成―

問題発見・解決能力、論理的思考力 コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養います

テュートリアル教育は「人間と社会」、テュータ（クラス担任教員）による少人数教育であり、学生が自ら問題点を発見し、解決する能力の習得が目的です。そのために小グループによる討議形式の演習を行い、課題について自己学習した内容をグループ内でリーダー、記録者、発表者の役割を輪番に担当。異なる立場で討議に関わることで、思考の幅を拡大させると共に、他者の立場を尊重する態度などの豊かな人間性を身につけることを目標にしています。

■ テュートリアル教育の目的



学生の問題意識と自主性を育てる授業スタイル

1 オープニングシーンの作成

教養科目「人間と社会」は年間を通して４課題に取り組みます。学生が「考えなければならない」「考えてもらいたい」ことをテーマに作成されたシナリオ（オープニングシーン）をベースに進められ、そのシナリオは多角的な視点から捉えられるように工夫されています。

2 授業の展開

学生は提示されたオープニングシーンについてグループごとに討論を行い、意見をまとめて全員の前で発表します。教員は学生の学習態度を適切に把握しアドバイスを与えます。さらに自分の意見や解決方法をレポートで提出させ、学生の習熟度を評価します。

3 評価

学生に対する評価は、本取組の目的に達したかどうかをレポート、ノート、教員による観察記録で行います。同時に、授業内容向上のための評価体制を確立。ピアレビューチーム※が授業を巡回・指導するほか、学生へのアンケートも実施。的確な評価を目指します。

※ ピアレビューチームは学長、副学長、学科長、教務部長、学生部長から構成

特色GP

卒業研究

平成 19 年度 文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」選定
『卒業研究による短期大学専門教養教育の展開』―短期大学士の質保障を目指して―

2 年間の学習で 学生全員が作成します

「卒業研究」は、必修科目として学生全員が取り組みます。これは本学が開学以来行っている特色ある教育の一つです。学生たちは指導教員の指導を受けながら図書館での文献調査や、さまざまな施設・機関等での調査、あるいは実験を行い、その研究成果を論文にまとめます。卒業研究発表会では各学科・専攻科の代表学生が自らの研究を発表。でき上がった論文は学外の方々からも高い評価を頂いています。

短期大学士の質保障を目指して

卒業研究の取り組みにより、「問題発見・解決能力」「情報活用能力」「プレゼンテーション能力」などコンピテンシー（専門職業人として必要な能力）を育成し「専門職としてのモチベーション」を向上させるため、さまざまな工夫を行っています。さらに、教員は徹底したきめ細かい指導や支援で学生をバックアップしていきます。

1 教育効果をあげる工夫

1 年次から卒業研究ガイダンスや研究領域の希望調査などを行い「卒業研究」へのモチベーションを高めます。また、授業で行うグループワークの発表や実験・演習の報告、大学祭での研究発表などを通してプレゼンテーションスキルの向上を図っていきます。

2 人間的成長を促す工夫

学生の人間力と自立創造力を育成するためには、学生が問題意識と主体性を持って研究に取り組むことが重要です。学生のモチベーションを高め、進捗状況に合わせた適切なアドバイスができるように不断の FD（Faculty Development）と教員間のミーティングを実施しています。

3 現代的課題への対応

少子高齢化や価値観の多様化など現代社会に山積するさまざまな課題の中から、自らの興味や関心に基づいた研究テーマを見つけます。学問と社会とを関連付けることで、社会の一員として学習する必要性を理解し、行動と結びつけていきます。

特色GP

五峯祭（いつみねさい）［大学祭］

平成 16 年度 文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」選定
『短期大学における自立創造力育成プログラム』

研究と発表のプロセスを通して 人間力と専門力を育成します

「五峯祭」は、それまでの授業で習得した知識や技術を活用し、研究・発表する総合学習の場となっています。毎年、幼児絵画展や健康づくり料理コンテストなど、子どもから大人まで楽しめるイベントが企画され、多くの人でにぎわいます。幼児保育学科の学生は幼児を相手にしたアトラクションを、健康栄養学科の学生は各種料理を披露するなど、地域社会に貢献し、これらの活動は、学生の自主性、創造性、問題発見・解決能力、協調性や社会性の育成、学習意欲の増進など、大きな教育効果をあげています。

人間力と自立創造力を兼ね備えた専門職業人の育成を目指して

学生支援推進プログラム

就職支援

平成 21 年度 文部科学省「学生支援推進プログラム」選定
『総合理解力の向上を図る就職支援プログラム』

本学における学生支援は、専門職業人を目指す学生への支援を中核とした専門性の育成と建学の精神に基づく「人づくり教育」を通じた人間性育成の二本の柱からなっています。その結果、両学科とも専門職への高い就職率を誇り、採用企業・施設等から長年にわたり高い評価を得ています。しかし、昨今の学生の資質を見ると、自己理解力と他者理解力の不足により、社会の中での自己の役割や在り方を認識し、より高いものを目指す姿勢に欠ける傾向があります。そこで本学ではこうした課題に対応するため、新たに、1．相互理解を促進するテュートリアル方式による就職支援学習の展開、2．自己理解を促進するための２年間の学修活動を総括する記入型「キャリアノートブック」の開発、3．他者理解を促進する卒業生および就業先への状況調査の実施をはじめとした就職活動資料の電子化等を実施することにより、総合理解力の向上を図り、就職支援の一層の充実を目指します。